

地方都市の現状と課題

「住みたい街 佐世保」の実現に向けて

佐世保市都市計画課
副主幹 田崎修一郎

1. はじめに

佐世保市は平成14年に市制施行100周年という記念すべき年を迎えた。

この節目に先人達が築き上げた100年を想い、さらなる100年の未来への一步を力強く踏みだしたいとの願いで、1年間にわたりさまざまな記念イベントを開催した。

天皇皇后両陛下をお迎えして開催した「全国豊かな海づくり大会」をはじめ、「全国都市問題会議」、「少子化対応推進全国フォーラム」など全国規模の大会が開催され、佐世保市を全国に発信するとともに、現在直面している多くの問題を考え直すよい機会となった。

本市の都市計画は、これからの新しい100年の未来に向け、「住みたい街 佐世保」の実現を図っていくために、「活力ある中心市街地の再生」と「豊かな田園環境の下でのゆとりある居住の実現」に係る施策を同時に進めながら、まちづくりを行っている。

(1) 地勢

佐世保市は九州の西端部の都市で、長崎県の北部に位置し、面積250km²、人口24万人を有する県内第2の都市である。市域は烏帽子岳(568m)や将冠岳(443m)を主峰とする山系が八字型にのび、さらに、これらの支脈が海岸に迫り、他方で臨海部の地形はリアス式海岸をなし、各所に半島や岬が形成されている。そのため、佐世保港は天然の良港となっている。

また、佐世保港から平戸までおよそ25kmの海上に浮かぶ大小の島々がありなす複雑な景観は、西海国立公園「九十九島」として称賛されている。

(2) 沿革

佐世保の歴史は泉福寺洞穴で発見された石器により、旧石器時代までさかのぼることができる。しかし、佐世保が実際に世の脚光を浴びようとなったのは、明治19年の軍港設置や明治22年の佐世保海軍鎮守府の開庁からである。

明治19年に約4,000人だった村が海軍鎮守府の開庁により、明治35年の市制施行時には約10倍の45,000人までに増加した。その後も軍港の拡充とともに市勢は発展し、近隣や全国から多くの人が集まり、第二次世界大戦時の昭和19年には人口が287,000人を数えるに至った。本市の人口はわずか50年あまりで70倍になり、この急激な都市化が今日の都市問題である、密集斜面住宅地や狭隘道路の市街地を生みだしている。

また昭和27年には米海軍基地が設けられると多くの港湾施設が接収され、佐世保の街にアメリカという異質の文化を内包することになる。昭和28年には海上自衛隊の前進である海上警備隊佐世保地方総監部が設置され、基地の町が定着することになる。

その後、平成4年にわが国最大級の滞在型リゾート施設「ハウステンボス」が開業したことで、国内外から年間580万人を超える観光客が訪れるようになり、観光都市として脚光を浴びることになる。本市はハウステンボス周辺のインフラ整備や特別用途地区(娯楽・レクリエーション地区)の指定を行い、観光客の誘致に努めていたが、おりしもバブル崩壊と重なり厳しい経営を余儀なくされたことなどから、平成15年2月会社更生法の適用申請がなされた。しかし、9月には支援企業が内定し再生に向けての第一歩を踏み出したところである。

2. 都市計画の経緯

本市の都市計画は、軍港の建設と並行して市街地建設の長崎県令が明治21年に出されることに始まる。南北の直線道路とそれに交差する東西道路を組み合わせ、長方形ブロックの整然とした街区が計画されてい

る。この頃よく歌われた「軍港草分け数え歌」でもこの基盤の目の状況が歌われており、当時としても、この都市計画がいかに斬新であったかが偲ばれる。その後、戦争のたびに急激な都市化が進み、都市計画としてのインフラ整備が間に合わない状況であった。

このような状況の中、昭和20年6月佐世保大空襲により中心市街地の1万1千戸が焼失した。そのため戦後すぐに佐世保復興都市計画が立案され区画整理事業、街路整備事業、上下水道事業等が行われ、現在の中心市街地の基盤となった。

しかし、復興途中において国等の財政状況の悪化とともに、整備されないままの都市計画道路が残り、今日、新たな都市問題となっている。

その後、昭和43年の新都市計画法に基づき、昭和46年に都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分した線引き制度を導入した。しかし、昭和の大合併により佐世保市へ編入された周辺の旧町村の区域が市街化調整区域に指定されたことから、線引き当初から議会等において市街化調整区域の規制緩和の要望が行われ、今日まで続いている。

3. 「活力ある中心市街地の再生」

本市の中心市街地は高度成長期以降の経済的な停滞や施設等の老朽化などにより、都市機能そのものが新しい時代のニーズに対応できない状況にあった。

佐世保の街の個性が十分に生かされないままに、街の魅力を失うことが懸念されたことから、都市機能の更新と高度化、都市空間の高質化、土地の高度利用が強く求められていた。

このような状況のなか、高速交通体系の整備として西九州自動車道佐世保道路の市街地乗り入れや鉄道高架化事業、既存市街地基盤整備として区画整理事業など、また新規開発として佐世保港ポータルネッサンス21計画の港湾整備などが進められている。

このように佐世保市の中心市街地は佐世保市民はもとより長崎県北部地域や離島、さらには佐賀県北西部を含んだ西九州北部地域の中心として、都市機能の充実が求められている。

(1) 佐世保駅周辺再開発

佐世保駅周辺地区(25ha)の再開発は、交通・港湾・観光・情報・文化・商業などの機能の強化充実を図ることによって、佐世保市の中心市街地が地方拠点都市



図1 佐世保市街地区画予定図



図2 市街化区域の指定状況図

の中心にふさわしい街として発展することを目指している。また、港につながる魅力ある都市空間の創出を図るために、港と既存市街地とを連結させた中心市街地を形成することによって、佐世保らしい魅力や、ゆとり・うるおいのあるまちづくりを行っている。

現在、西九州道佐世保道路及びその受け皿となる都市計画道路平瀬町干尽町線の整備を除いては、ほぼ完成している。

(2) 密集市街地整備促進事業

本市の中心部は平地が少なく、すり鉢状の地勢になっており、前述の戦前の急激な都市化により、住宅が斜面地に無秩序に広がり密集斜面住宅地が形成された。そのため住環境の悪化や防災上の問題が顕在化している。またモータリゼーションの進展に伴い、若い世代が車の入らない斜面地から郊外へ流出したことで高齢化が著しい状況にあり、さらには中心市街地の空洞化



- | | |
|----------------------|---------------------|
| 佐世保港ポータルネッサンス2 1計画区域 | 佐世保駅周辺鉄道高架化 |
| 佐世保駅周辺土地区画整理区域 | シ・サイド・ホールアルカスSASEBO |
| 都市計画道路平瀬町千尽町線 | 西九州道佐世保道路 |
| 潮見地区市街地再開発(イ・プラザビル) | 戸尾地区市街地再開発(アノビル) |

図3 佐世保駅周辺再開発事業の位置図



図4 中心市街地の斜面住宅地

という都市問題に発展している。

そのため、平成12年度から中心部の斜面地のおおよそ30haについて市街地調査を行い、その中で整備地区を抽出し、まちづくり協議会を設立しながら密集市街地整備促進事業に基づいた整備計画の策定に着手したところである。

4. 「豊かな田園環境の下でのゆとりある居住を実現」

これまでの都市計画は主に都市(市街化区域)を中心としたまちづくりを行ってきたが、平成12年の都市計画法及び建築基準法の一部改正に基づき、都市と農

林漁村(市街化調整区域)を個別に捉えるのではなく、両者が共生したまちづくりを計画するために、庁内に市街化調整区域の土地利用計画の検討委員会を組織した。

その中で、郊外部でのゆとりある居住の実現を図るために、市街化調整区域における住宅建設の緩和施策の検討を行い、住民の多様なニーズに対応できるように3つの施策の展開を図っている。

平成15年度

市街化調整区域の地区計画制度の運用

また、これらの緩和策の運用に至るもうひとつの背景には、都市計画制限の及ばない隣接町への人口流出を食い止めること、さらに都市計画区域を指定していない町との合併が予定されている中で、隣接地区との土地利用の自由度に大きな差を生じさせないことも上げることができる。

5. おわりに

本市は平成 11 年 3 月にワークショップ等の住民参加を行って「佐世保市都市計画マスタープラン」を策定した。現在行っている「活力ある中心市街地の再生」と「豊かな田園環境の下でのゆとりある居住の実現」はその中で方針として示したものであり、平成 12 年の法改正がさらに後押しとなった。その後も、住民の意見を聞くために、まちづくり講演会を開催しながら、都市計画の啓発活動を行い、真に住民が求めるまちづくりはどのようなものであるのか、アンテナを高くしながら意見を頂いている。

さらに都市計画審議会へは都市計画決定事項だけでなく、都市計画に必要と認める事項についても提案をしながら意見を頂く様に努めている。

これからの新しい 100 年の「住みたい街 佐世保」を実現するために。



図 5 まちづくりイベント

(左 : H13.12.09) (右 : H15.02.16)

「キャンパス計画研究会」

研究代表 黒瀬 重幸
幹 事 外井 哲志

2003 年 9 月 20 日から 9 月 23 日まで、キャンパス計画研究会メンバー（黒瀬主査、外井、坂井、梶田）によって、上海における大学キャンパスに関する交通、学生居住等に関するヒアリング、視察を行いました。調査対象は、同済大学、上海交通大学の 2 校です。同済大学建築城市計画学院校長助理の王教授から同済大学のキャンパス計画について、また、建築城市計画学院の陳教授から、上海市楊浦区における 17 大学による学術研究都市構想の話を行いました。王教授の「資金は問題ではない、計画までの時間が短いことが課題です。」という言葉に、オリンピックと国際博覧会を前に発展を急ぐ中国の勢いを感じました。調査に当たっては、同済大学橋梁工程系の劉玉擎副教授にアレンジして頂きました。

「アジア都市研究会」

研究代表 日高圭一郎
幹事 ビョン ヘソン

現在、研究会は 2004 年 1 月 11 日～1 月 14 日の国際シンポジウム(International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries)の開催に向けての準備を進めております。開催地は、韓国のソウルに位置した韓国環境政策・評価研究院(Korea Environment Institute)です。

今回のシンポジウムのテーマは、都市環境、都市景観、都市居住の 3 つです。2 月 20 日まで応募したアブストラクトは、日本を含めて韓国、中国、シンガポール、インドネシア、台湾から 33 件の投稿がありました。2003 年 10 月 1 日まで全論文の応募と審査の結果、最終的に 19 編の論文が採用されました。当日発表の論文は、会場の都合などで都市防災などの 14 編が限定されました。また、シンポジウムの 2 日目には、ソウル市の伝統的建築物を中心にフィールドトリップを

実施することになりました。詳しくは、以下のホームページを参照してください。

<http://urban.tutrp.tut.ac.jp/AURG/sympo2004/>

イベント・催しのご案内

「樗木武先生功績賞受賞記念講演会」

本会九州支部長として長年ご指導いただいた九州大学名誉教授樗木武先生が、2002年度日本都市計画学会功績賞を受賞されました。これを記念いたしまして、本会支部主催の受賞記念講演会（聴講無料）を開催します。是非ご聴講いただきますようご案内申し上げます。また、講演会終了後には、先生にお世話になった有志により樗木武先生を祝う会も企画されております。こちらの会にもご参加いただきますよう、重ねてご案内申し上げます。なお、参加にあたっては事前申込みが必要です。詳細につきましては支部ホームページをご覧ください。

<http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/tokeigaku/>

主 催 日本都市計画学会九州支部

日 時 H15年11月8日(土)16時~19時

場 所 福岡ガーデンパレス(1Fホール)

住所:810-0001 福岡市中央区天神4丁目8-15

TEL:092-713-1112

スケジュール

記念講演会:16:00~17:00

樗木武先生を祝う会:17:00~19:00

担 当

九州大学大学院工学研究院環境都市部門

梶田 佳孝

Tel/Fax 092-642-3278

E-mail kajita@doc.kyushu-u.ac.jp

平成15年度第三回幹事会報告

平成15年度第3回幹事会が先日開催されましたので、以下に概要を報告致します。

日 時:平成15年8月29日(金)16:00~17:45

場 所:九州大学工学部建築学科4階会議室

出席者:9名

議事内容

議 題1:支部長報告

本部の会議報告なし。

議 題2:事務局報告

(1)支部ニュースについて

第29号の編集・発送終了について報告、および、第30号~第32号の担当者を決定した。

(2)支部ホームページについて

リンク集の掲載等について議論した。

(3)研究会助成金について

各研究会への助成金送金について報告。

議 題3:来年度の企画について

来年度に向けての企画立案について議論した。

議 題4:樗木武先生功績賞受賞記念講演会について

講演会の企画および案内について議論した。

議 題5:その他

詳細は以下の委員会ホームページに掲載しています。

<http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/tokeigaku/>

支部ホームページ

「リンク集への掲載募集について」

本年度の8月から支部ホームページの更新作業をしています。現在、このページの新たなコンテンツとして「リンク集」を作成中です。つきましては九州支部の会員の皆様からリンク集への掲載を募集致します。掲載を希望される方は下記までご連絡ください。

担 当:柿本竜治(熊本大学)

連 絡 先: kakimoto@gpo.kumamoto-u.ac.jp

連絡事項:

リンク先のホームページの名称

ホームページのアドレス

ホームページの内容(200字以内)

ホームページの管理者氏名

管理者のメールアドレス

「会員からの最新ニュース欄の新設」

支部ホームページに「会員からの最新ニュース」欄を新設しました。ここには会員から寄せられたニュース等を掲載できます。講演会、シンポジウムの各種イ

ベントの案内や会員の皆様に周知を図るべきニュース等がございましたら、下記まで連絡願います。

担 当：柿本竜治（熊本大学）

連 絡 先：kakimoto@gpo.kumamoto-u.ac.jp

支部ニュースに関する問合せ・連絡先

支部ニュースに関するお問い合わせやご意見等がございましたら下記までご連絡ください。また、各種イベント（シンポジウムや講演会等）のお知らせ等を掲載することも可能です。案内文を下記までお寄せください。

【都市計画学会九州支部事務局】

有馬隆文（九州大学大学院人間環境学研究院）

TEL：092-642-4397 FAX：092-642-3349

E-mail：arima@arch.kyushu-u.ac.jp